

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひめさゆり)

事業所番号	0672300431		
法人名	オーリンク株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	山形県西村山郡朝日町大字宮宿320番地の6		
自己評価作成日	令和 2年10月 6日	開設年月日	平成18年 3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりが役割のある生活が継続できるよう支援している。  
また、リハビリ体操やカラオケ等、職員もご利用者と一緒になって楽しむように心がけている。  
食事はできるだけ地元の食材を使い、季節の物を多く取り入れるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 2年11月26日	評価結果決定日	令和 2年12月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とユニット内に掲示している。以前は職場内研修時(月1回)に唱和していたが、現在は実施していない。管理者と職員は共有しているが、実践は十分であるとは言えない。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の懸念から地域の催しは無くなり、交流は止まっている。しかし、近所の方から野菜や花をいただいたり、畑を耕してもらったりの交流はある。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は広報紙等を定期的に発刊し、認知症の理解や支援の方法等、地域の人々に向けて発信していたが、現在は刊行していない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常2ヶ月に一回、会議を開催していたが、令和2年度はコロナ感染症の状況もあり、一度も行っていない。今年度はホームの現状を記載した資料を運営推進会議委員の方へ持参し、ご意見を伺うようにしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で実情を伝えている。また、町の取り組みや現状等をお聞きしたり、電話でも情報を交換し、協力関係を築くよう取り組んでいる。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っている。環境やご利用者の状態、言動を観察しながら対応にあたっては、止むを得ない場合は玄関を施錠することもある。転倒の危険が高い場合は、家族の了解のもと、離床センサーを使用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修会を行っている。同じ職員ばかり対応するのではなく、人を変えながら対応することで相互牽制が出来ている。また、ご利用者に対しての言葉遣いを職員同士で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で学習する機会を設けている。まだ理解に乏しいが、制度を利用するご利用者が居るため、理解しようと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は個別に説明し、理解をしていただけるように努めている。また、改定等は家族懇談会を開催し、ご納得いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱は設置しているが、設置の認識不足なのか意見はほとんどいただけていない。ご家族に電話をする際に意見や要望を引き出す機会を作り、それを反映はさせている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年の夏に施設長との面談があり、意見や提案を聞いてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足のため、残業等は仕方ないと思っている。早急に人材の確保をお願いしたい。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自、勉強したい研修に行かせてもらっている。また、一人ひとりに合った研修を管理者が勧めてくれる。今年度はコロナ感染症の影響もあり、外部派遣は実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前はグループホーム交換実習に行き、他事業所との交流もあったが、現在は行っていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にアセスメントを行い、不安な事やご利用者本人の生活の意向等を聞いて把握に努め、不安無く生活が出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の立場に立って話を聞き、思いや不安な事を受けとめながら、互いに理解を深め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者本人、ご家族等の実情や要望から何が必要かを見極め、安心・納得してサービスを利用出来るよう支援の工夫に努めている。また、他のサービス利用についてもアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業の協働を通して、受容と共感の気持ちを持って支援している。ご利用者の目線に合わせ、一緒に物事を進めることを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、職員間で情報共有を行い、何が必要なのかを考え支援している。面会時には日頃の生活の様子や健康状態を報告し、安心できる関係を築く努力をしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症のため、思うように外出が出来ていない。ご家族との面会もシート越しで15分位になっているが、温かく見守っている。また、ご利用者の要望により、電話や手紙で関係が途切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を把握し、食堂の座席を決めている。また、ご利用者同士が互いに関わるように職員が仲介し、コミュニケーションをとっている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は積極的に関わりを持ってはいないが、お会いした際には挨拶を交わしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者より希望や楽しみ等を聞き、その意向に沿うように努めている。意思表示が困難な場合は、ご家族と相談しながら支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活のアセスメントシートを見て、生活歴や大切にしてきた暮らし方を把握し、ご家族からも話を聞いて支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状態を観察し、出来る力、理解する力を見出し、必要な支援を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングを定期的に行い、ご利用者やご家族の生活に対する意向をお聞きした上でケアプランを作成している。また、ユニット会議内で職員から意見やアイデアを出してもらっている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り等で日々の変化や様子を確認・共有しているが、実践内容を漠然と記録したり、全員に伝わらず流れが止まってしまうこともある。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの受け入れ等の交流を図っているが、現在はコロナ感染症予防対策により地域との関係に距離を置いている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は身体状況の報告、相談、適切な医療を受けられるように支援している。出来るだけ受診の付き添いをご家族にお願いしている。ご家族へお願いをする場合は、現状や相談内容を記載した受診時連絡表を医師へ渡してもらっている。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が週2回健康管理を行っている。申し送りノートを活用したり、口頭で相談している。急変時には電話で相談し、指示を仰いでいる。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状態報告とどのようなケアが必要なのかを情報交換している。退院に向けては医師の説明とサマリーを通して情報を共有し、医療機関との関係作りを行っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項を説明書でお話しし、終末期の在り方等もご家族と話し合い、事業所でできる事を説明し、同意を得ている。この数年、ターミナルケアは行なっていないが、年齢を重ねる毎に状況が変わり、ご利用者やご家族の意向も変わる事が予想されるため、今後も都度聴き取りを行なっていく。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時初期対応の勉強会を以前は行なっていたが、最近では行なっていない。また、心肺蘇生訓練やAEDの使い方、異物除去の訓練は年一回行っているが、今年度はコロナ感染症もあり、実施出来ていない。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。一人ひとりのご利用者の状態を踏まえ、慌てず確実な避難誘導が出来るようにマニュアルを通して訓練している。食料、飲料水等や常備品も準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「～してください」の言葉がけではなく、「お願いできますか？」等、ご利用者が選択出来るような声かけを心掛けている。不適切な言葉遣いがあった時は、職員同士で注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で自己決定が出来るよう働きかけている。また、決定表出が出来ない方には、二者択一で声かけをしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが個人のペースを大切に出来るよう、職員同士で生活歴を含めた情報共有をしたり、ご利用者に希望を伺うようにしているが、止むを得ず職員の都合を優先してしまう事もある。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやカット、パーマの希望があれば、出来るだけ希望に添えるように支援している。季節、気候に合った洋服選びをアドバイスし、選んでいただいている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、一緒にメニューを考えている。食欲が出るように味付けや盛り付けを工夫している。後片付けが日課となっている方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病疾患のある方、誤嚥しやすい方等、提供量、食事形態を把握し、栄養バランスを考えてお出ししている。水分が摂れにくい方には、トロミ剤を使用したり、少し甘さを加え工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけ、見守りを行っている。磨き足りない所は介助を行い、全くケアが出来ない方には、洗浄液や柔らかいスポンジブラシを使って汚れを取っている。毎夕食後に義歯を洗浄剤で消毒している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用し、排泄の状況を把握している。一人ひとりに合わせた声かけ、定時誘導を行い、パットの交換回数を減らすよう努力している。また、オムツを使用している方は、意思表示が無いので、使用回数を減らすのは困難な状態である。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を1日1000ml以上摂取出来るように声かけしている。また、毎朝、牛乳を提供したり、整腸剤を服用する時は水分を多めに摂っていただいている。リハビリ体操で腸の活性化を図っている。しばらく排便のない時は、下剤を服用している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴を行いたいが、機械浴の順番や職員配置の都合上で曜日や時間帯を決めている事も多い。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた温度、気候に対して空調管理を行っている。また、身体状況に合わせた、安楽な姿勢で休息が出来るように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報を共有しつつ、与薬時は職員間で名前、月日、服用時間を声に出し読み上げ、飲み終わるまで傍を離れないようにして誤薬が無いよう、確認を徹底している。以前の事案を再確認する機会を作り、間違いのないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意だった事、趣味等で張り合いのある生活を送れるように支援している。最近はコロナ感染症や職員体制により、外出する事が少なくなってしまうが、敷地内屋外での催し物で楽しむ事の支援をしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、ご利用者の希望に出来るだけ添えるよう時間を作り、外出の支援に努めていた。最近は、コロナ感染症の状況もあり、対応が難しい所である。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額を所持している方がおり、その中から切手や歯磨き粉等を購入している。大半の方のお金の管理、支払い等は職員が行っている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、いつでも出来るよう支援している。また、定期的到手紙のやり取りをしている方や携帯電話を所持している方もおり、それぞれ支援をしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごす事が出来るよう、動線の確保に配慮している。四季を感じられるよう、貼り絵、生け花等で生活に季節感を取り入れている。定期的な換気や空間除菌脱臭器を設置し、感染症予防にも努めている。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で昼寝が出来ない方は、フロアでテレビを見たり、新聞を読んだりして過ごされている。仲の良いご利用者同士がお互いの居室を訪問し、楽しくお話をされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、愛用品、写真やテレビを置いているご利用者も何名かいらっしや、居心地の良い空間作りに工夫をしている。認知症の進行具合により装飾物等で危険となる可能性がある場合は、ご家族に相談をしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表記は大きな字で分かりやすくしている。日めくりカレンダーも大きく見やすい物を使用している。フローリングには滑りにくいワックスを使用し、安全性にも配慮している。		